



本日のプレゼン内容

- 横浜市における国際園芸博覧会の検討経緯
- 横浜市の概要
- 横浜市における国際園芸博覧会
- 今後のスケジュール





横浜市における国際園芸博覧会の検討経緯

～旧上瀬谷通信施設の返還～

旧上瀬谷通信施設

横浜市

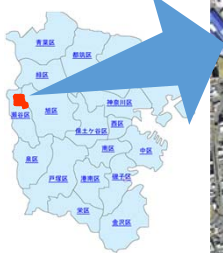


2



横浜市における国際園芸博覧会の検討経緯

～旧上瀬谷通信施設の返還～



3

横浜市における国際園芸博覧会の検討経緯

■ 米軍施設として土地を提供 昭和26年(1951)～平成27年(2015)



- ・土地利用が制限されていたため開発が遅れていた
- ・平成27年6月に全域が返還

農業振興と都市的土地利用による郊外部の新たな活性化拠点形成の起爆剤として、**国際園芸博覧会（A1）の招致を推進**



4

横浜市における国際園芸博覧会の検討経緯

～検討経緯～

年月	内容
平成27年6月	上瀬谷通信施設返還
平成28年度	国際園芸博覧会招致に向け本格的検討開始
平成29年6月	「旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会」設置
平成30年3月	「旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会基本構想案」策定
平成30年6月	国へ旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会の開催要請
平成31年2月	「国際園芸博覧会の横浜誘致を成功させる横浜市議員の会」設立
平成31年4月	「国際園芸博覧会招致推進室」設置
令和元年5月	県内・市内の関係団体・関係機関の参加による「国際園芸博覧会横浜誘致推進協議会」設立
令和元年7月	国際園芸家協会(AIPH)による横浜視察



5



本日のプレゼン内容

- 横浜市における国際園芸博覧会の検討経緯
- 横浜市の概要
- 横浜市における国際園芸博覧会
- 今後のスケジュール



6



横浜市の概要

政令指定都市

面 積 (2018.3.23)

435.43km²

人 口 (2019.8.1)

374万8,473人

世帯数 (2019.8.1)

170万9,616世帯

外国人人口数 (2019.7.31)

101,601人

市内総生産 (28年度)

13兆5,596億円



7

横浜市の概要

～観光MICE都市～



アフリカ開発会議(2013)



アジア開発銀行年次総会(2017)



8

横浜市の概要

～スポーツを通じた賑わいづくり～

2002 FIFA World Cup



Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020



RUGBY World Cup 2019™



9

横浜市の概要

～文化芸術創造都市～

Dance



Dance Dance Dance@YOKOHAMA 2018

Music



横浜音祭り2016

Art



ジョコ・アヴィアント 《善と悪の境界はひどく縮れている》2017
ヨコハマトリエンナーレ2017展示風景
撮影：加藤健 写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会



10

横浜市の概要

～第33回全国都市緑地よこはまフェア～



11

横浜市の概要

～ガーデンネックレス横浜～



12

横浜市の概要

～園芸博を通じたまちづくりの展開～



13

本日のプレゼン内容

- 横浜市における国際園芸博覧会の検討経緯
- 横浜市の概要
- 横浜市における国際園芸博覧会
- 今後のスケジュール



14

横浜市における国際園芸博覧会

～理念～

- ・地球環境持続のための環境社会への転換
- ・国連SDG s (持続可能な開発目標)の取組
- ・超高齢化社会への対応

課題への対応

- ・戦略的な自然共生の知恵と仕組みの共有
- ・課題を価値に転換する技術革新や産業領域の創出
- ・経済成長と社会的な成熟に向けた国際的な行動の展開が必要

日本が、国際的な取組を先導し、
新たな環境社会の構築と経済活性化
につなげていくことが重要

15



横浜市における国際園芸博覧会

～理念～

横浜

活力と基盤、実績

- ・開国後、海外との植物輸出入の玄関口
- ・都市の緑の保全、創造等の取組を先導
- ・世界的な大都市の環境モデル
- ・374万人の市民力、多彩な企業・団体の活動
- ・ガーデンシティの形成が政策目標の一つ

横浜・上瀬谷で花と緑をシンボルに、
地球環境の持続、経済成長、成熟社会等を展望した
未来志向の国際園芸博覧会（A1）を開催

16



横浜市における国際園芸博覧会

～開催意義～

■ 国際的視点

- ・国連SDGsへの貢献
- ・第4次産業革命にバイオテクノロジーが融合する**第5次産業革命の進展**
- ・日本の優れた自然共生の知恵や文化を発信し、相互共有による**多文化共生や友好平和を推進**



17

～開催意義～

■花と緑、博覧会の視点

- ・国際的な園芸ビジネスの機会の提供等により、**花き園芸の市場拡大に貢献**
- ・日本の華道や庭園等の芸術文化に触れる機会を契機に、**自然への理解と行動を促進**
- ・教育、健康、医療、福祉、芸術等への花と緑の新領域構築による**新たな価値観やサービスを創出**



～開催意義～

■日本・横浜・上瀬谷での視点

- ・国内外との交流により、**首都圏の観光・MICEや観光立国、地方創生、次世代の産業創出や経済成長に貢献**
- ・国際都市横浜の多様な魅力を世界に発信し、**地域経済の活性化や都市ブランド等のさらなる向上**
- ・博覧会会場となる旧上瀬谷通信施設の土地利用を促進し、**郊外部の活性化モデルとして圏域を振興**





■事業展開の考え方

- ・横浜・上瀬谷にしかない時間・空間・価値を世界と共有する。
- ・次世代を担う世界の子どもたちをはじめ関わる全ての人とみんなでつくり・育み続けられる展開を進める。
- ・人々の交流を創り続け、最先端技術等にあわせて常に進化(深化)を先導する。

横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開～

■ 日本・横浜・上瀬谷の魅力と活力を発信する要素



基本構造として

「グリーンインフラ」を位置付け

22

横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～

“グリーンインフラ ～グリーンシティを支える計画・技術の提案～”



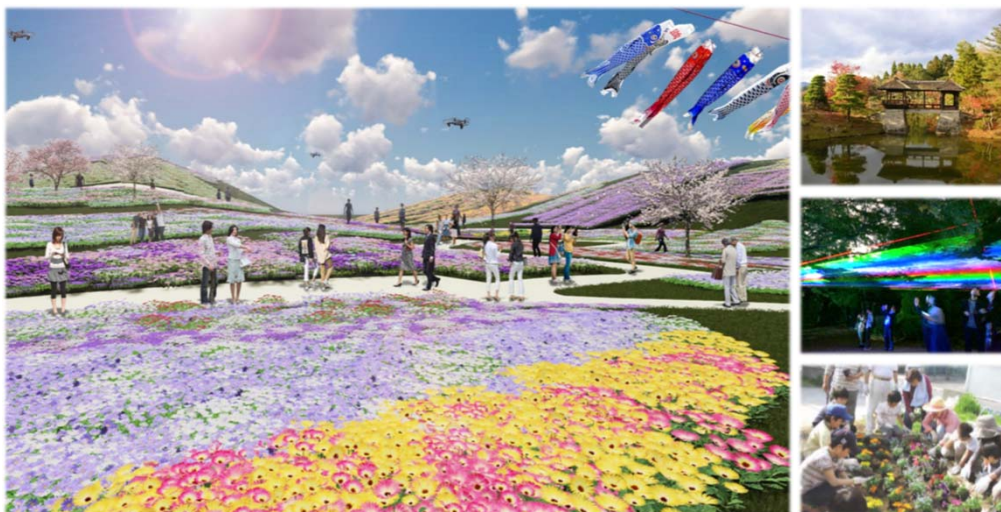
23



横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～

“ランドスケープ・アドベンチャー ～リアルとバーチャルによる世界の園芸空間～”



24



横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～



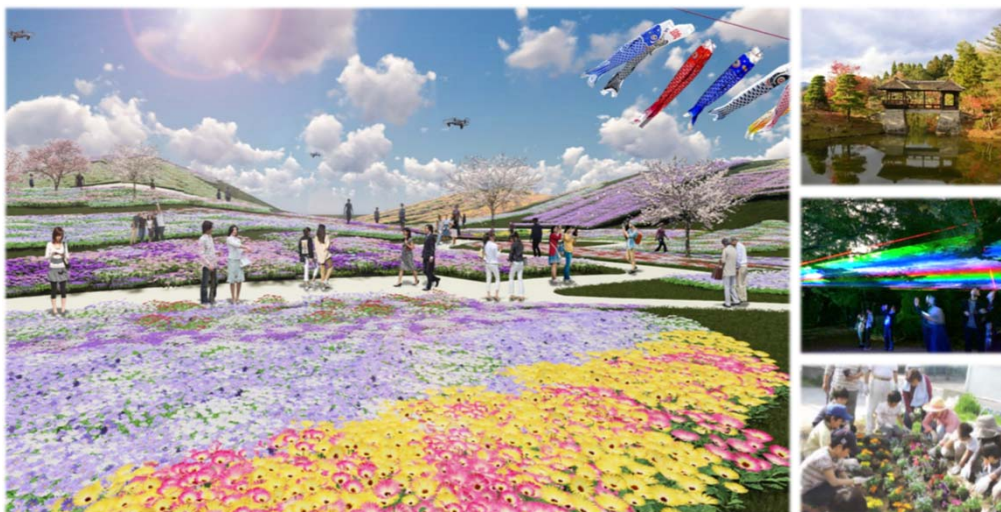
25



横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～

“ランドスケープ・アドベンチャー ～リアルとバーチャルによる世界の園芸空間～”



26



横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～

“横浜農場とワールドマルシェ ～次世代農業と食文化体験～”



27

横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～



28

横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～

“横浜農場とワールドマルシェ ～次世代農業と食文化体験～”



29

横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～

“先端技術展示 ～自然の神秘、未来の可能性～”

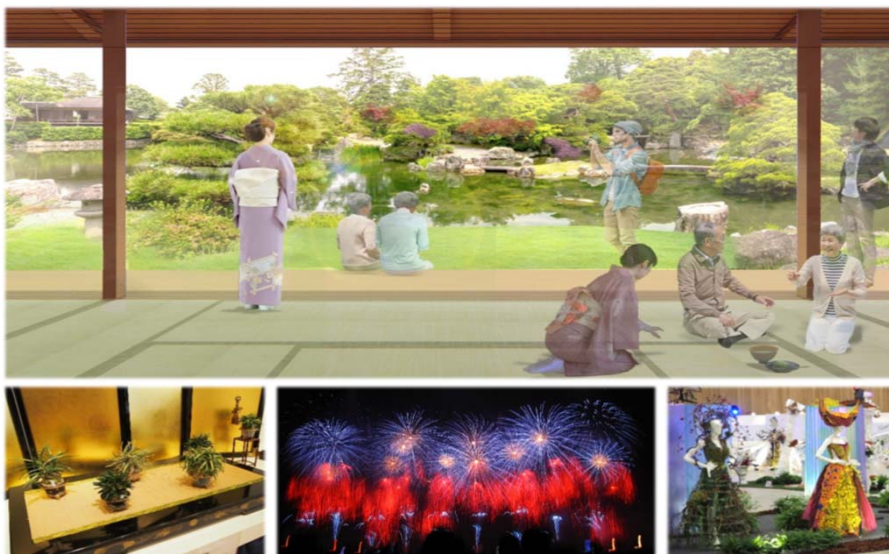


30

横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～

“日本の原産種と園芸文化 ～日本と世界の文化芸術交流～”



31

横浜市における国際園芸博覧会

～事業展開イメージ～



32

横浜市における国際園芸博覧会

～国策への寄与～

■ 成長戦略フォローアップ

【令和元年6月21日 閣議決定】

- ➡ 都市の競争力の向上（グリーンインフラの取組の推進等）、脱炭素社会の実現、スマート農業の推進、農林水産物等の輸出の促進、観光立国の実現

■ 経済財政運営と改革の基本方針2019

【令和元年6月21日 閣議決定】

- ➡ 新しい時代に対応したまちづくり（緑と水をいかした都市環境整備等の推進）、地域産業の活性化（観光の活性化、農林水産業の活性化）、SDGsを中心とした環境・地球規模課題への貢献



33



横浜市における国際園芸博覧会

～国策への寄与～

■ 統合イノベーション戦略2019

【令和元年6月21日 閣議決定】

- ➡ バイオテクノロジー、環境エネルギー、農業に関わる分野の取組の強化



34



横浜市における国際園芸博覧会

～国策への寄与～

■ 国土形成計画（計画期間：2015～2025年）

【国土形成計画法（昭和25年法律第205号）】

- ➡ 生物多様性の確保（グリーンインフラの取組の推進等）、地球環境問題（地球温暖化等）への対応、観光振興による地域活性化、農林水産業の成長産業化 等

■ 都市農業基本計画

【都市農業振興基本法（平成27年法律第14号）】

- ➡ 都市農業の多様な機能の発揮



35

■ 花き産業及び花き文化の振興に関する基本方針

【花きの振興に関する法律（平成26年法律第102号）】

- ➔ 花き産業の生産性及び品質の向上の促進、
花きの輸出の促進、研究開発の推進、花きの文化の振興、
花きの需要の増進 等



国際博覧会開催状況

年度	国際園芸博覧会(A1)	国際博覧会(登録)
2019	中国北京	
2020		ドバイ万博
2021	カタール：ドーハ	
2022	オランダ：アルメール	
2024	ポーランド：ウッチ	
2025		大阪・関西万博

国際博覧会の開催予定と旧上瀬谷通信施設の土地利用計画のスケジュールを踏まえ、**2026年～2029年の開催を想定**

横浜市における国際園芸博覧会

～開催期間～

■ 2027年3月～9月（6か月間）

- 機運醸成やPR強化のためのイベントの実施を考慮
- 横浜におけるサクラ、チューリップ、バラなどの開花時期等を考慮



38

横浜市における国際園芸博覧会

～想定来場者数～

■ 1,500万人以上
(うち、有料入場者数1,000万人以上)

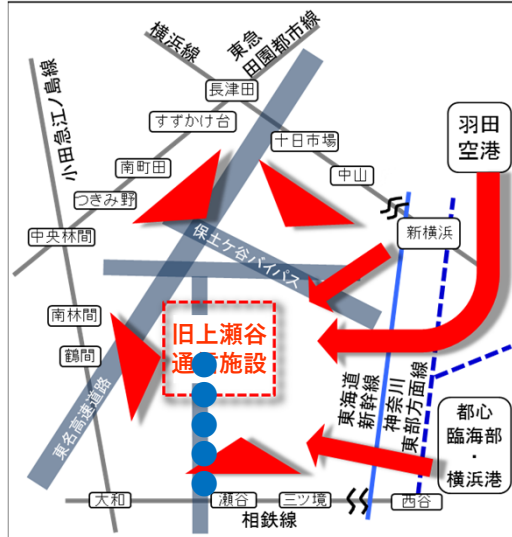


39



横浜市における国際園芸博覧会

～輸送計画の考え方～



旧上瀬谷通信施設の交通便利性を生かし、ひとつのルートに集中することがないよう、**多方面に分散させる輸送計画**とします。

- ・近隣駅や主要駅等からのシャトルバスの運行を検討
- ・瀬谷駅から整備が検討されている新たな交通の利用
- ・将来土地利用と整合を図りながら、道路機能を強化

42

横浜市における国際園芸博覧会

～都市インフラの強化～

相鉄・JR直通線：2019年11月30日開業
相鉄・東急直通線：2022年度下期開業予定

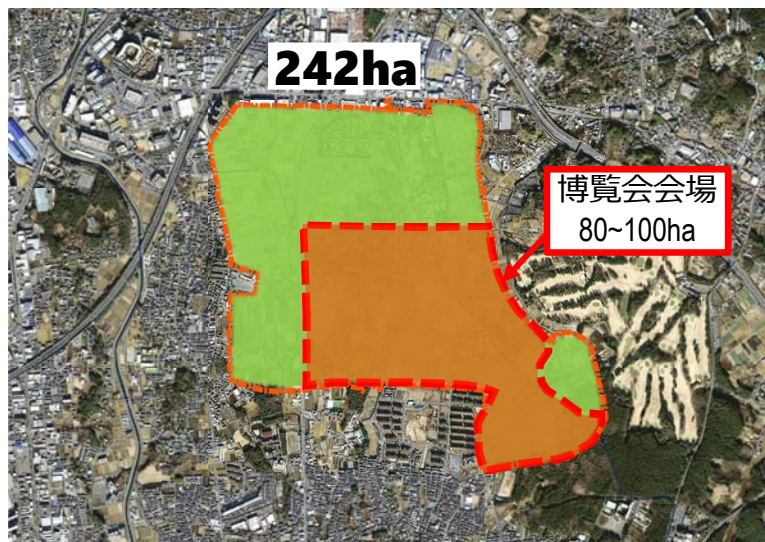


43

43

横浜市における国際園芸博覧会

～会場位置～



※会場位置は検討中のものであり確定したものではありません。

44

横浜市における国際園芸博覧会

～博覧会会場ゾーン案～



※ゾーン案は、検討中のものであり確定したものではありません。

45

横浜市における国際園芸博覧会

～博覧会会場の跡地利用～



横浜市における国際園芸博覧会

～開催経費及び経済波及効果～

■ 開催経費

過去の博覧会等を参考に、会場面積を80～100haとした場合の現時点での試算

項目	試算額
会場運営費	320～360億円
会場整備費	190～240億円

■ 経済波及効果

博覧会の開催による全国への経済波及効果を、開催経費、関連公共事業費等をもとに試算

試算額
8,800～9,100億円

本日のプレゼン内容

- 横浜市における国際園芸博覧会の検討経緯
- 横浜市の概要
- 横浜市における国際園芸博覧会について
- 今後のスケジュール



48

今後のスケジュール

2019年9月	◆ 国際園芸家協会(AIPH)へ開催申請
2020年 ～ 2026年	◆ 博覧会国際事務局(BIE)へ開催申請
	◆ 博覧会開催組織の設立
	◆ 博覧会国際事務局(BIE)へ認定申請
	◆ 博覧会計画の策定及び会場建設
	◆ 参加招聘 等
2027年	横浜国際園芸博覧会開催



49

